

# AOSSG 活動報告

ASBJ 常勤委員 せきぐち ともかず  
**関口 智和**

## 1. はじめに

アジア・オセアニア地域の会計基準設定主体においては、2009年11月にアジア・オセアニア会計基準設定主体グループ(AOSSG)が組成されており、企業会計基準委員会(ASBJ)も2010年9月から2011年11月まで第2代目議長を務める等、その活動に積極的に参画している。2013年11月に開催された第5回年次総会より、香港の会計基準設定主体(HKICPA<sup>1</sup>)が議長、韓国会計基準設定主体(KASB)が副議長(任期:2年間)となって活動を行っているが、本稿では、主に2014年11月から2015年1月における活動について、概要をご紹介します。

## 2. IASB に対するコメントレターの提出

AOSSGでは、プロジェクトごとに作業グループ(WG)が組成され、国際会計基準審議会(IASB)に対する意見発信等がされている。2014年11月から2015年1月において、

IASBより公表された次の協議文書に対するコメントレターが提出された。

- ディスカッション・ペーパー「動的风险管理の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価アプローチ」(2014年12月19日提出)
- 公開草案「未認識損失に係る繰延税金資産の認識」(2014年12月19日提出)
- 公開草案「子会社、共同支配企業及び関連会社に対する相場価格のある投資の公正価値での測定」(2015年1月16日提出)
- ディスカッション・ペーパー「料金規制の財務上の影響の報告」(2015年1月27日提出)

## 3. ASAF 会議への対応

IFRS財団がIASBの諮問機関として設置した会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF)会議には、アジア・オセアニア地域から、ASBJ、中国、オーストラリアに加えて、AOSSGから代表者(AOSSG議長)が出席している。このため、AOSSGでは、代表者がAOSSGメンバーの見解を適切に発言できる

1 本稿において、会計基準設定主体の表記は、ASBJ(当委員会)を除き、「国若しくは地域名(会計基準設定主体の略称)」によって記載するか、又は、国若しくは地域名のみを記載している。

ようにするために、ASAF ワーキング・パーティー<sup>2</sup>を組成した上で、事前に意見集約を行うとともに、事後的にも AOSSG メンバーに対するフィードバックを行っている。

2014年12月4日から5日にかけて開催された ASAF 会議では、リース、保険契約、持分法、退職後給付、開示に関する取組みほかが議題となっていたことから、関連する各 WG リーダー<sup>3</sup>が中心となって WG メンバーの意見を集約し、AOSSG 代表者へのインプットを行った。ASAF 会議の様相については、別稿「2014年12月開催 ASAF 会議報告」(67頁)をご参照いただきたい。

#### 4. AOSSG 年次総会の開催

2014年11月26、27日に、香港にて、第6回 AOSSG 年次総会が開催された。今回の年次総会には、アジア・オセアニア地域の18カ国の会計基準設定主体から代表者(総勢70名程度)が参加したほか、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)からオブザーバーが参加した。当委員会からは、小野委員長、小賀坂副委員長、関口常勤委員、紙谷ディレクターが出席した。また、IASB から、Hans Hoogervorst 議長、篤地理事、Chungwoo Suh 理事、Henry Res テクニカル・ディレクターが参加したほか、IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスから、竹村所長ほかに参加した。

今回の年次総会では、IASB が審議を行っているプロジェクトに焦点を当てて議論されたほか、AOSSG メンバーによるその他の関心事項や AOSSG の今後に向けた戦略等について議論がなされた。以下、主な議論について、概要を

記載する。

##### (1) 概念フレームワーク

IASB は、2013年7月に公表されたディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」に寄せられたコメントを踏まえ、2014年3月以降、再審議を行っている。本年次総会では、概念フレームワーク作業グループ議長である ASBJ の進行に基づき、再審議における IASB による暫定決定のうち、特に次の点について議論が行われた。

- ① 資産及び負債の定義が十分に厳密なものとなっているか
  - ② 資産又は負債の定義に該当する項目を財務諸表に認識すべきか否かを判断するにあたって、認識規準は十分に堅牢なものとなっているか
  - ③ 財務諸表において認識される資産及び負債について目的適的な測定基礎をどのように識別するか
  - ④ その他の包括利益(OCI)に表示された金額について組替表示を行うべきか、また、その場合、すべての状況で組替表示がなされるべきか
  - ⑤ 負債と資本の区分に関して特に考慮すべき要因にどのようなものがあるか
- 議論においては、特に認識規準については、多くのメンバーから、様々な理由により IASB の暫定決定について異論が示された。

##### (2) リース

IASB は、2013年5月に米国財務会計基準審議会(FASB)と共同で改訂公開草案「リース」を公表しており、これに対して寄せられたコメントを踏まえ、2013年11月より再審議を

2 ASAF ワーキング・パーティーは、香港(リーダー)、日本、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、イラク、韓国、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、シンガポールより構成。

3 リース WG、保険契約 WG、財務諸表表示 WG 等において、それぞれの WG メンバーの意見集約が行われた。

行っている。本年次総会では、リース作業グループ議長であるシンガポール会計基準設定主体の進行に基づき、特にIASBによって再審議が行われることが予定されている論点（リースの定義、少額資産の取扱い）について議論が行われ、メンバーからはこれらの点についてさらなる検討を求める見解が示された。また、議論において、IASBとFASBの間で本基準についてコンバージェンスが図られない可能性について複数のメンバーから懸念が示された。

### (3) 保険契約

IASBは、2013年6月に公表した改訂公開草案「保険契約」に寄せられたコメントを踏まえ、2014年1月より再審議を行っている。本年次総会では、保険契約作業グループ議長であるKASBの進行に基づき、IASBによるこれまでの暫定決定を踏まえ、無配当契約の移行措置に関する実務上の懸念が示されたほか、有配当契約の取扱いについて議論が行われた。また、議論において、欧州の大手保険会社によるグループ(CFO Forum)から提案された代替的モデルのほか、契約上のサービス・マージンをその他の包括利益累計額(AOCI)として表示するアイデア等について、意見交換がなされた。

### (4) 開示に関する取組み

IASBは、開示に関する取組みの一環として、開示原則プロジェクトに着手しており、ディスカッション・ペーパーの公表に向けた議論が行われている。本年次総会では、開示作業グループ議長であるKASBの進行に基づき、IASBによるこれまでの暫定決定を踏まえ、次の点について議論が行われた。

- ① 基本財務諸表を構成するそれぞれの財務諸表の役割や注記の役割について明確化がされるべきか

- ② どの会計方針に関する記載をより明瞭とすべきかについて、企業がどの程度の判断を使用するようにすべきか

- ③ IFRSに準拠しない財務情報の開示について、追加的な基準レベルのガイダンスが開発されるべきか

- ④ 財務諸表からその他の記載内容への相互参照に関する一般原則が必要か

上記のうち、特に相互参照については、これに肯定的な見解と否定的な見解の両方が示されていた。

### (5) 持分法

IASBは、アジェンダ・コンサルテーション2011に寄せられたフィードバックを踏まえ、持分法に関するリサーチ・プロジェクトに着手している。持分法については、KASBからリサーチ・ペーパーが公表されており、本年次総会では、これについてKASBから説明が行われたうえで、持分法のあり方について議論がなされた。議論においては、持分法について純粋な「一行連結」といえないという理由で、FV-PLによる測定をすべきということにはならないのではないかという見解が示された。

### (6) 料金規制事業

IASBは、アジェンダ・コンサルテーション2011に寄せられたフィードバックを踏まえ、料金規制事業の会計処理に関するリサーチ・プロジェクトに着手している。IASBは、2014年9月にディスカッション・ペーパー「料金規制の財務上の影響の報告」を公表しており、本年次総会では、料金規制事業作業グループ議長であるKASBの進行に基づき、IASBによるこれまでの暫定決定を踏まえ、次の点について議論が行われた。

- ① 料金規制の財務上の影響についてどのような情報が財務諸表利用者の意思決定にとって

最も目的適格的であるか

- ② アジア・オセアニア地域でどのような料金規制の形態が存在するか
- ③ 世界において様々な料金規制スキームが存在することを踏まえ、IFRS に準拠した財務諸表において目的適格的な情報が提供されるよう、IFRS の要求事項について修正がなされるべきか

議論においては、一部のメンバーからは、料金規制事業の特性に起因する権利や義務について資産・負債を認識する考え方に対して肯定的な見解が示されたが、多くのメンバーからは慎重な見解が聞かれた。

#### (7) 排出量取引

IASB は、アジェンダ・コンサルテーション 2011 に寄せられたフィードバックを踏まえ、排出量取引スキームの会計処理に関するリサーチ・プロジェクトに着手している。本年次総会では、韓国における排出量取引スキームについて概要、韓国において会計基準を開発する過程で識別された論点について説明がなされたう

で、排出量取引の会計処理について議論がなされた。議論においては、排出量取引の会計処理について、事業活動の態様によって異なる会計処理を適用すべきという見解が示されていた。

#### (8) IFRS への収斂や適用に関する報告

IFRS への収斂や適用に向けた動向として、インドネシアからインドネシアの会計基準の収斂に関する動向が紹介されたほか、スリランカから、昨年 の年次総会における報告以降の進展が報告された。また、ASBJ からは、修正国際基準の開発について、その意義やこれまでの審議の様態を含め、説明を行った。

#### (9) その他

上記のほか、次の点について情報交換や意見交換が行われた。

- イスラム金融
- IFRS 第 10 号「連結財務諸表」に関する適用上の課題
- AOSSG の戦略の取りまとめ